

世田谷区立世田谷中学校
校長 前田 浩 様

世田谷区立世田谷中学校
学校関係者評価委員会
委員長 後藤 彰夫

令和5年度 学校関係者評価報告書

本年度の学校関係者評価について、以下のようにまとめたので報告します。

1 アンケート実施状況(期間：2023/10/17～10/31)

対象者	回答数	配布数	R5回収率(%)	R4回収率(%)
生徒	428	530	80.7	66.4
保護者	304	530	57.3	21.2
地域	21	30	70.0	63.3

2 評価対象ごとの評価結果の分析

肯定的な評価（Aとても思う、B思う）の割合が8割程度を目標達成の判断目安とし、協議した。肯定的な回答がやや低い項目（8割以下）であっても、実態と学校の取り組み状況を総合的に判断した。

〔1〕生徒

学習指導、生活指導、学校行事については、ほぼ8割以上の肯定的な評価であり、特段の課題はないと思われる。

中でも、特に肯定的な評価の高い項目は、

「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」 (A+B 92.3%)

「学校行事は、楽しい」 (A+B 89.7%)

「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」 (A+B 89.3%)

「学校行事は、達成感がある」 (A+B 87.1%)

であり、充実した授業、生徒が学校行事に積極的に取り組んでいる様子が窺える。

一方で、否定的な評価（Cあまり思わない、D思わない）が高い項目や回答できない（E分からない）との評価が目につくものとして、

「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」 (C+D 55.6%、E 15.7%)

「私は、家庭学習でタブレットを使った学習をもっと増やした方が良いと思う」 (C+D 40.2%、E 13.1%)

「私は、学校で各種検定を受検したり、講習会、補習教室に参加したりして、授業以外にも自ら進んで学習に取り組もうとしている」(*) (C+D 34.4%、E 9.8%)

「私は、家庭で宿題やeラーニングなどで学習をしている」 (C+D 33.9%、E 10.5%)

があり、生徒は学び舎の活動に積極的に取り組めていないことや、授業等での学習の充足感はあるものの主体的に学んでいこうという姿勢がまだ自らには無いとの捉え方をしている。

また、前年度・前々年度に比べ、大きく評価を下げている項目として、

「先生たちは、生徒が相談しやすい」 (A+B 61.9% 前年度比-14.9% 前々年度-14.7%)

「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」 (A+B 77.4% 前年度比-5.5% 前々年度-8.6%)

であり、学校行事や部活動は楽しく、達成感があると答える生徒たちが多いのだが、相談しやすい雰囲気づくりなど、生徒への接し方・指導の仕方に工夫の余地を残すと考えられる。

また、キャリア教育に関しては、昨年度は5～10%のポイント上昇であったが、今年度は、

「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」 (A+B 68.9% 前年度比-6.7%)

「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」 (A+B 77.6% 前年度比-6.2%)

「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」 (A+B 66.4% 前年度比-6.8%)

と、下降している。指導・支援の有り方の改善が望まれる。

〔2〕保護者

530通のアンケートを配布し、全学年で304通の回答があった。回収率は57.3%となり、学校およびPTAが種々の方法で繰り返し呼びかけたことにより、前々年度までの水準に復活した。その中で今年度と昨年度を比べると、新規項目を除く41項目中、37項目で評価が下がっている。回収率と評価とは無関係とは言い難いと判断し、前年度同様、今年度と昨年度の評価の変動(+、-)の比較は行わないこと

とした。

肯定的な評価（A とても思う、B 思う）の割合が高い項目は、	
「学校行事は、子どもにとって楽しい」	(A+B 86.8%)
「学校行事は、子どもにとって達成感がある」	(A+B 85.5%)
「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもの安全に関する指導をしている」	(A+B 78.6%)
「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」	(A+B 76.3%)
「本校は、子どもの意欲を大切にしている」	(A+B 75.0%)
「本校の教育活動は、子どもの成長につながる」	(A+B 75.7%)

項目数、評価数値が十分とまではいえないが、学校が、生徒の安全に配慮をし、情報をきちんと伝える中で、生徒たちが楽しく過ごしていることを保護者が評価をしていることが窺える。

特異な点として、生徒アンケートと同様の質問項目（*）において、生徒では高い評価とは言い難い(A+B 55.8%)項目で、保護者からは大変高い評価を得た項目があった。

「学校で生徒たちが、各種検定を受検したり、講習会、補習教室に参加したりして、授業以外にも自ら進んで学習に取り組もうとしているのは良いことだと思う」 (A+B 88.2%)

これは、生徒には実態を尋ねたのに対し、保護者には意義を尋ねるという相違があったためと思われる。次年度以降、設問の工夫を検討したい。

「学び舎の区立（幼稚園）小学校について情報が提供されている」 (A+B 32.2%)

など「学び舎」に関わること、「地域」への情報提供などの項目の評価は、例年同様高いとはいえない。そして、新規の独自項目である

「本校では働き改革が進んでいると思う」 (A+B 35.9%)

は低い評価である。次年度に向けて改善への方策を望む。

〔3〕地域

肯定的な評価（A とても思う、B 思う）が9割を超えた項目が、16項目中5項目あった。

「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」 (A+B 100%)

「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」 (A+B 100%)

「学校行事の内容は充実している」 (A+B 95.2%)

「地域の人や施設を教育活動に活かしている」 (A+B 90.4%)

「学校は安全性を高めようと地域と協力している」 (A+B 90.4%)

一方で、例年同様

「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」 (E 分からない 42.9%)

は、保護者の同傾向設問と同じく（E 分からない）の評価が多く、地域・保護者ともに高い評価とは言えない。学校として、協議会・委員会の方針・活動を周知させることを重ねて望む。

3 学校への提言

(1) 新たな学びへの取り組み

ICT活用の効果について、生徒・保護者共に高水準の評価を維持しているが、家庭での活用は依然低いままである。原因を探り、学校・家庭双方で一層の活用を図っていくことを続けて望む。

一方で、キャリア教育の推進と更なる定着、および生徒一人一人の学びへの意欲・姿勢・推進力の育成への支援は、生徒の自己実現やこれからの社会参画に不可欠である。学校には家庭・地域と共にこれらのことを創り上げていく取り組みを今まで以上に求める。

(2) 教職員の働き方改革の推進

今年度新規の独自項目として挙げた「本校での働き方改革」については、「進んでいる」と答えた保護者は約36%と低い評価であった。これは「先生に相談しやすい」という項目が生徒・保護者ともに低評価であることと無関係とは言えないであろう。教職員がゆとりを持って業務にあたり、ワークライフバランスを実現させることが、教育活動の充実、安心安全な学校環境の構築、そして生徒・保護者・地域からの信頼につながると考える。学校業務の見直しと整理をさらに進めるとともに、単位校では成しえない、就労時間の短縮等に向けた喫緊の課題の解決が図られることも強く望む。

4 総合所見

自己評価報告書及び学校関係者評価等によると学校は様々な活動に取り組み、一定の成果を挙げている。地域運営学校としての機能を最大限に生かし、学校としての考え方や取り組み方法について最善の方策を生み出し、実践を願いたい。この学校に関わる生徒、保護者、地域および教職員等が、共に自信と誇りの持てる世田谷中学校となるよう、教職員一丸となってさらに取り組んでいただくことを強く望む。

令和5年度 世田谷区立世田谷中学校 学校関係者評価委員会			
委員長：後藤彰夫	委員：木村美紀	委員：室田久子	
委員：渡辺馨	委員：由良孝江	事務局：新妻弘樹	